

子どもの学習支援事業への参加

代表者名 曾我千春

はじめに（背景・目的・目標）

近年、子どもの貧困問題が深刻化しつつあり、2013年には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」（以下、子どもの貧困対策法）が施行されている。同法は「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、子どもの貧困対策に関し、基本理念を定め、国等の責務を明らかにし、及び子どもの貧困対策の基本となる事項を定めることにより、子どもの貧困対策を総合的に推進すること」（第1条）を目的とし、「子どもの貧困対策は、子ども等に対する教育の支援、生活の支援、就労の支援、経済的支援等の施策を、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会を実現することを旨として講ずることにより、推進されなければならない」（第2条）と基本理念を定めている。そして国は、基本理念にのっとり子どもの貧困対策を総合的に策定・実施する責務を負い（第3条）、地方自治体は、基本理念にのっとり、子どもの貧困対策に関し、国と協力し、当該地域の状況に応じた施策を策定・実施する責務を負っている。国・地方自治体の責務で子どもの貧困防止を遂行していく旨が法的に明確化されている。

子どもの貧困対策法、生活保護法・生活困窮者自立支援法に基づき、金沢市では、金沢市社会福祉協議会が実施主体となり、金沢市・金沢市教育委員会・金沢大学・金沢星稜大学が連携し、中学生の高校進学に向けた学習支援と社会的居場所づくりに取り組んでいる。また、高校生についても中学生時に参加していた生徒には高校入学後も参加対象とし、高校中退防止等に向けたアフターフォローを実施している。

金沢星稜大学からは経済学部4年生1名と3年生2名、2年生1名（女子学生）がボランティアとして参加している（2019年2月より人文学部の男子

学生2年参加）。

本事業におけるボランティア活動を通じて、現代日本に生じている貧困問題の深刻化を考える機会となる。そして自己責任では解決できない生活や教育の問題を、どこが責任をもって解決し子どもの発達を保障していくのかを経験をもとに考える実践的・理論的な学びにつながる。

活動内容

本事業の対象者は、生活保護受給世帯・生活困窮世帯の中学生・高校生である。2018年度の中高生参加登録者は37名（中学生17名、高校生20名：うち生活保護受給世帯28名）となっている。一方、学生ボランティアは金沢大学・金沢星稜大学を併せて41名が登録している（本学は4名が登録）。

①学習支援教室の開催（場所：金沢市社会福祉協議会：松ヶ枝福祉会館）

- ・ 土曜日（月2回、1・2月3回）9:00～17:00
 - 1名2時間
 - マンツーマン制で、中高生の学力や進捗状況に合わせて学習支援を行う。
 - 開催回数は21回、延べ参加者数189名
- ・ 金曜日（毎週16:00～19:00）、月・水（夏休み期間16:00～18:00）
 - 学習支援ボランティアを配置し、自己学習支援を行う。
 - 開催回数52回、延べ参加者数158名
- ・ その他、ボランティアを配置しない自主学習の場として教室を開放

②交流イベントの開催

- ・ 夏休み・冬休み期間にイベントを開催し、交流を通じて継続的な参加を促した。
- ・ 登録中高生とその弟妹（小学生以上）を対象
 - 2018年8月17日 奥卯辰山健民公園
 - ◇ バーベキューとレクリエーション
 - ◇ 参加者25名（中高生10名、小学生2

名、ボランティア 6 名、市生活支援課職員 3 名、市社協職員 4 名)

- 2018 年 12 月 27 日 松枝福祉会館
- ◇ 調理実習とレクリエーション
- ◇ 参加者 22 名 (中高生 9 名、小学生 1 名、ボランティア 7 名、市生活支援課職員 2 名、市社協職員 3 名)

③企画・運営ミーティング

- ・ 教室運営上の課題等について、学習支援ボランティア、金沢市、金沢市社協、アドバイザー (金沢大学・金沢星稜大学の教員、金沢市教育委員会等) で協議を行った。
 - 4 回 (5 月、11 月、12 月、(3 月 18 日開催予定))
 - ボランティアから支援に関する意見や質問、中高生の支援方針、今後の教室運営等

④ボランティア学生による学習支援だよりの発行

- ・ 紙面を作成し、教室参加者や参加対象世帯に配布
 - 月 1 回発行
 - 教室の様子やイベントの報告、生活アドバイス、クイズ、参加者募集案内など



一マとしてあげており、今後、先行研究も踏まえながら理論と実践の両者からの研究を進める。

また、常に市社協の職員との話し合いを行っており、大学外の活動から社会の一員として重要な役割を担うことへの責任感も生じている。

今後も引き続き本事業への参加を継続していく。

⑤参加者の推移

2019 年 1 月現在 (単位: 人)

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
登録者	19	20	14	20	31	31	37
延参加者	158	307	262	331	457	542	384
ボランティア登録者	14	24	24	33	35	44	41

※2012 年度から 2016 年度までは生活保護受給世帯を対象。2015 年度から生活困窮世帯に対象を拡大。2015 年度の高校 3 年生等には高校中退者および定時制高校 4 年生を含む。

※各年度 3 月末時点の数 (2018 年度は 1 月末の数)。

成果、結果の考察

本学のボランティア学生は 4 名と人数は少ないものの、月 1 回のペースで参加している。3 年次の学生については卒業研究で本事業の取り組みを研究テ

謝辞: 金沢市社会福祉協議会の職員のみなさまにはボランティア学生を受け入れ、ご指導いただき、また本年報作成にあたっては資料等をご提示いただき、心より感謝申し上げます。